

2017年10月8日(日)朝10:10
10月第2共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第19、読書会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**7つのラッパ；第7の金の鉢：**
大バビロン大淫婦の滅亡

聖書：ヨハネの黙示録 18章4～8節

＜口語訳＞

新約聖書403～404頁

ヨハネの黙示録 18章4～8節

＜新共同訳＞

新約聖書473頁

ヨハネの黙示録 18章4～8節

＜新改訳第3版＞

新約聖書496頁

ヨハネの黙示録18章4～8節

＜塚本訳＞

新約聖書814頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利予告、18章1～3節は、バビロンの滅亡予告。
- ◇ヨハネ黙示録18章4～8節は、大バビロン・大淫婦の滅亡予告の第二弾です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第18章4～8節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録18章4～8節；ヨハネは、大バビロン・大淫婦の滅亡の再々予告を聴きます。

◇18:4～8；塚本訳◆刑罰の布告—第二の天使の宣言

「4 また私はもう一つ(他)の声为天から(こう)言うのを聞いた、「私の民よ、彼女(の所)から出て来い。その罪に干与らず、またその災厄の巻き添えを喰わないために！

5 彼女の罪は天に達し、(今や)神はその悪事を思い出し給うたのである。

6 彼女が(自分で他人に)為たように彼女にもせよ。その行為に応じて(報復を)二倍にせよ。彼女が(他人に)注いだ酒杯に、倍にして彼女に注げ。

7 彼女が自分を誇り且つ奢っていただけの苦痛と悲歎とを彼女に与えよ。彼女は心の中で『私は女王として(王座に)坐っている。私は寡婦ではない。決して悲嘆に遭わないであろう』と言うからである。

8 だから(わずか)一日の中に(様々な)彼女の災厄、死と悲嘆と飢饉とが来、また火で焼かれるであろう。彼女を審き給うた主なる神は強くいまし給うからでる。」と、ヨハネは、大バビロン・大淫婦の滅亡の再々宣言を第二の天使からも聴きました。

◇4～5節；ヨハネが、「私はもう一つ(他)の声为天から(こう)言うのを聞いた」、「私の民よ、彼女(の所)から出て来い。その罪に干与らず、またその災厄の巻き添えを喰わないために！」、「彼女の罪は天に達し、(今や)神はその悪事を思い出し給うた」と、「大バビロン・大淫婦」から「離れる」ことを求める「第二の天使」の声を聴いたのです。

⇒神は、「第二の天使」によって、「大バビロン・大淫婦の滅亡予告」に加えて、ヨハネを含む神の教会に「大バビロン・大淫婦」の生活と一体になることを回避するように命じられたのです。

◇6～7節；「彼女が自分を誇り且つ奢っていただけの苦痛と悲歎とを彼女に与えよ。彼女は心の中で『私は女王として(王座に)坐って

いる。私は寡婦ではない。決して悲嘆に遭わないであろう』と言うから」と「大バビロン・大淫婦」の生活に実態を示し、「彼女が(自分で他人に)為たように彼女にもせよ。その行為に応じて(報復を)二倍にせよ。彼女が(他人に)注いだ酒杯に、倍にして彼女に注げ」と、「神の律法」に基づく「報復」を「宣告」せよと、「命じられた」のです。

⇒「大バビロン・大淫婦」は、「迫害等の悪行」、「淫行と表現される政治経済の癒着」、「神なき奢侈謳歌」の3つの罪によって、「神の裁き」を受け、「滅亡」すると、神は、宣言されたのです。

◇8節；「だから(わずか)一日の中に(様々な)彼女の災厄、死と悲嘆と飢饉とが来、また火で焼かれる」と、神は語られ、「彼女を審き給うた主なる神は強くいまし給うから」と、「神ご自身」を「自己紹介」し、理由を明示しての裁き施行であることを示されたのです。

⇒「大バビロン・大淫婦」は、政治経済文化的に地上の人々を拘束する「権力者」で、神信仰に生きる者は、「彼らの生活を離れる」のみ！

◆ローマ2章1～11節;パウロは、同胞に対し、悔い改めを求めています。

◇2:1～11;塚本訳◆ユダヤ人に対する神の怒りの裁き

- 「1 だから、ああ人〔ユダヤ人〕よ、あなたは(人を)裁いているが、あなたがだれであろうと、言い訳は立たない。あなたは人を裁いて、実は自分の罪を定めている。裁きながら、同じことをしているからである。
- 2 わたし達が知っているように、(いま言った)こんなことをする者を、神は真理によってお裁きになる。
- 3 ああ人よ、あなたはこんなことをする者たちを裁きながら、自分で同じことをしているが、それで自分(だけ)は神の裁きを免れると思っているのか。
- 4 それとも、神の豊かな慈愛と忍耐と寛容とを誤解し、憐れみ深いこのお方があなたを悔改めさせようとしておられることが、わからないのか。
- 5 こうしてあなたは頑固な悔改めない心によって、神の正しい裁きの現われる怒りの

日に望む(神の)怒りを、自分のために貯蓄している。

- 6 神は『ひとりびとりの行いに応じて報いられる』(と聖書は言う。)
 - 7 すなわち、忍耐して善を行うことによって栄光と栄誉と不滅とを求める者には、神は永遠の命をおあたえになるが、
 - 8 自分本意で、真理に従わず偽りに従う者には、怒りと憤りとが待っている。
 - 9 (つまり、)苦しみと悩みとは悪を働くすべての人、まずユダヤ人、次に異教人に、
 - 10 また栄光と尊敬と平安とは善を行うすべての人、まずユダヤ人、次に異教人に、のぞむであろう。
 - 11 神にはえこ贖がないからである。」と、パウロは、神信仰に与生きるユダヤ人同胞に対して、悔い改めを求めました。
- ◇4節; パウロは、「神の豊かな慈愛と忍耐と寛容とを誤解し、憐れみ深いこのお方があなたを悔改めさせようとしておられることが、わからないのか」と問いかけ、「裁く」ことの空しさを示しています。

⇒「ヨハネ黙示録」**「18:4～8」**で、**神が「報復」**を求めておられるのに、**パウロ**は、同じ同胞に**「悔い改め」**を求めるこのの間に、**「矛盾」**を感じるかも知れません。

⇒ヨハネ黙示録では、**神は、「大バビロン・大淫婦の政治経済文化」を「離れる」**ことを求め、**「報復」**を**神の命令**として**宣言**しているのです。

⇒ヨハネ黙示録**18:4～8**では、**「大バビロン・大淫婦」**を**「離れる」**ことが、**悔い改め**です。

⇒**「報復宣言」**は、**「神が報復される」**ことを語ることであって、裁きを行うことではないのです。

⇒**パウロ**は、同胞が、**「神の裁き」**に先行して**「報復する」**ことを戒め、**「神の豊かな慈愛と忍耐と寛容」**、**「神の憐れみ深さ」**に心の思いを向けることを求めているのです。

◇**6節**；**パウロ**は、**「神は『ひとりびとりの行いに応じて報いられる』(と聖書は言う。)」**とも、語っているのです

⇒現実の環境は、**「神なき社会」**ですが、**真の支配者**である**「神の豊かな慈愛と忍耐と寛容、憐れみ深さ」**に心に向け、祈りたいのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利予告、18章1～3節は、バビロンの滅亡予告。
- ◇ヨハネ黙示録18章4～8節は、大バビロン・大淫婦の滅亡予告の第二弾です。

- ⇒ヨハネの黙示録18:4～8は、「**大バビロン・大淫婦**」が、**滅亡**することの再々宣言です。
- ⇒この「**神なき権力の自滅**」の原則は、いつの時代においても、心にとめておき、「**神の愛の律法**」に生きることに全力を注ぐことが、**神の御意**に従って生きる秘訣です。
- ⇒**神信仰によって生きる者**にとって、この裁きの啓示を通して知るべきことは、「**滅びの道**」に乗らないで、「**天の都**」を**目ざす道**を確実に歩もうと再確認、再決心をすることです。
- ⇒「**神信仰**」に生きる戦いととともに、「**天の都**」を目ざすことを政治、経済、文化の流れの中に巻き込まれていると、心が結びつかなくなるのです。
- ⇒「**大バビロン・大淫婦**」は、地上の政治経済文化を圧倒的な権力で支配していますから、その支配を「**離れる**」ことは容易ではありません。そこで、「**神信仰**」が試されています。
- ⇒「**豊かな慈愛と忍耐と寛容**」、「**憐れみ深い**」の**神**が、「**神信仰**」に生きるためにあらゆるものを総動員して下さるのです。
- ⇒**神の人**を時代、地域に備えておられます。